

鹿児島大学シニア短期留学生の「かごしま見聞録その1」

第1回鹿児島大学シニア短期留学生 宮城 宏

*年表

- 2003.4 奈良高等学校通信課程入学
- 2006.9~2007.3 編集・ライター養成講座入学
- 2006.11~12 鹿児島大学シニア短期留学
- 2007.3 奈良高等学校通信課程卒業
- 2007.4 鹿児島大学水産学部科目等履修生入学
- 2009.3 鹿児島大学水産学部終了
- 2007.4 鹿児島大学公開授業受講開始
- 2009.9 鹿児島大学公開授業受講中止
- 2007.9 文学サークル入会
- 2008.4 登山クラブ入会
- 2008.4 放送大学入学
- 2009.4 大阪文学学校入学
第1次漁村探訪開始
- 2009.7 合気道入門
- 2010.6 陸上競技サークル入会
- 2010.10 食道癌手術
- 2011.3 退院
- 2011.3 第2次漁村探訪開始

1. はじめに

若い頃水産輸送に携わり全国を駆けていました。「海に関わる人々は今どんな暮らしをしているのか知りたい」「最期までには『海の民』の物語も書きたい」。その工程は鹿児島大学水産学部に留学したいという決意から始まりました。

60代後半を迎えての留学の地、鹿児島は、そのひろい舞台のあちこちに私の好奇心をわかせる土地でもありました。2006年11月に参加した「シニア短期留学」に触発された身には、多種多様な対象が目に入ります。それは官や民、NPO等数多くの組織や団体による企画、運営でした。私の気持ちはあちらこちらに飛び、好奇心は散漫となります。しかしそれは、私の目標を支えるひろい裾野にも見えたのでした。以来五年、恵まれた環境にありました。しかし対象を捉えて自分のものにする力、未だあらずいぜん志

半ばなのです。

以下の報告は、2006年に奈良から来た65歳の老年男子が鹿児島大学シニア短期留学に参加した「動機と実際」水産学部科目等履修生として得た「経験」鹿児島滞在での「実践と考えたこと」など、2011年現在に思うことについて記した「かごしま見聞録」の一端であります。

2. 逃がしたものを取り戻す

— 鹿児島大学シニア短期留学 —

背景

これまで家族を養うために、心ならずも多くの仕事に従事してきました。それ故、多くの悔いも残した人生でした。特に30代からは家族の成長もあり生活に追われる一方、「逃がしたもの」を取り戻そうとしていました。しかしその多くは、条件が無かったり勘違いであったなどで、徒労に終わったのでした。

知見が乏しいが故の失敗であり、屈辱でありました。知見が乏しいが故の選択や徒労も多く、その多くは地域活動に携わる中に現れます。心が壊れそうなこともあった活動を長く続けたのは「継続は力」にすぎたからです。しかし、結果として積み重ねたものは少ないものでした。やはり若いときにどれだけ長く勉学を積んだかという、学習歴の問題につきあたります。

一方60歳を目前にして市議会議員選挙に候補者として推されます。期待に応えなければと思うものの、躊躇し辞退しなければならなかったのは自分自身への自信のなさからです。無念でした。

「このままでは死ねない」それ以降の私のキーワードとなったのです。ですが私の中の積み重ねは乏しい。いつも機会を逃してばかりでは情けない。また何か新しく機会は巡ってくるはずだ、その時のために自分の力を少しでもつけておきたい、と言う強い気持ちが募ってきたのでした。

動機

私が65才になる、通信制高校の4年次のことです。「海

洋社会」を学ぶために、鹿児島大学水産学部「科目等履修生」を志望しました。しかし、募集要項を元にした電話問い合わせではなかなか扉が開かず思いあぐねていました。

そんなある日鹿児島大学のHPに「シニア短期留学」の

募集を見たのです。水産学部の扉を開く何かきっかけが見つかればと思い、応募したのです。私にはその留学費用が相当に高価で「清水の舞台から飛び降り」なければなりません。そして飛び降りたのです。

国立大学法人鹿児島大学第1回シニア短期留学のパンフレットより抜粋

1. プログラムの構成と狙い (担当:鹿児島大学生涯学習教育研究センター)

2008年のNHK大河ドラマに決定した「篤姫」。その篤姫(あつひめ)が生まれ育った鹿児島には全国に誇る特産品や伝統産業が数多くあります。

これらの特産品はいつ頃、どのようにして生まれたのでしょうか? 鹿児島の専門家といっしょにそれらのルーツを辿りながら、特産品の裏に隠された(日本の近代化)という壮大なドラマを掘り起こします。

また、鹿児島の自然特性を桜島火山、黒潮、植生、と段階的に追いながら、これらの自然条件を礎に豊かな文化が育まれたきたことを発見する旅に出ます。

総合大学としての鹿児島大学の持つ知的財産をわかりやすく参加者に伝え、地元で活躍するNPO法人の若者の案内で、鹿児島各地を訪れます。2週間のすべての行程をおえたとき、はじめて鹿児島の全体像が浮かび上がるはずです。

2. シニア短期留学の概要

(1) 開催期間: 2006年11月26日(日)~12月9日(土) 14日間

(2) 受講時間: 11月27日(月)~12月8日(金)

平日10日間、午前中に2講義 計20講義

(3) 受講科目

1) 鹿児島大学特別講座

①鹿児島島の歴史文化を学ぶ

②鹿児島島の伝統産業や食文化のルーツを辿る

③鹿児島島の豊かな自然と人間の共生を理解、など

④座談会形式でまとめや補足説明を受ける

*鹿児島大学各学部教授陣による特徴ある授業。

*教室での授業や巡検(現地研修)を予定。

2) 学生向け講座の受講

1, 2 年生向け「鹿児島探訪」講座を一般学生と共に受講

(4) アクティビティ

NPO法人「かごしま探検の会」の協力を得て、講義に合わせた体験・交流型のアクティビティを用意。

(5) 週末プログラム: 霧島温泉郷に泊まり、鹿児島ならではの見学・体験・

交流ツアーをご案内する予定。(別料金)。

(6) 参加募集、資格

年齢: 50歳以上の男女 30人、最少催行人員: 20人

日程、講義などの予定

| | | |
|--|---|---|
| <p>11月26日(日)</p> | <p>15:00～ 各自ホテルへチェックイン</p> | <p>17:00～ ホテルで集合し、ドルフィンポートの会場へ移動。 18:00～ 開講式と夕食。 「初穂花」にて鹿児島・奄美料理と島唄ライブを楽しんで頂きます。</p> |
| <p>11月27日(月)</p> | | |
| <p>講義1. 9:00～10:20 オリエンテーション (生涯学習教育研究センター教授 松野 修)</p> <p>2週間のプログラムの目的や概要について確認します。大学施設やスタッフの紹介など、新入生の気分をぜひ味わってください。</p> | <p>講義2. 10:30～12:00 鹿児島を科学する (生涯学習教育研究センター教授 松野 修)</p> <p>鹿児島の歴史と地理を科学すると新しい鹿児島が見えてきます。知られざる「明治維新と鹿児島」について楽しく学びます。</p> | <p>アクティビティ 13:30～15:00 鹿児島大学キャンパス・ウォーク (NPO法人かごしま探検の会 担当)</p> <p>学生気分に戻って学食で昼食を済ませ、いざ鹿児島大学キャンパス探検！鹿児島大学のキャンパス内には、森や農園もあり、田之神様までいるなど不思議な魅力がたくさん。それらをじっくり探検します。</p> |
| <p>11月28日(火)</p> | | |
| <p>講義3. 8:50～10:20 鹿児島の自然を診断する (理学部教授 根建具心)</p> <p>鹿児島といえば桜島。その桜島に秘められた地殻変動のドラマをはじめ、世界に類をみない鹿児島の地形・地質、火山、鉱山などあまり知られていない自然特性の事実をお話します。</p> | <p>講義4. 10:30～12:30 (県立博物館にて) 鹿児島の自然と暮らしの進化 (鹿児島県立博物館学芸員 寺田仁人)</p> <p>鹿児島は九州南端にあって南に西に大小さまざまな島が点在し、豊かで恵まれた自然環境の中で人びとが生活しています。ここでは鹿児島に棲む様々な植物を学びます。これを通じて亜熱帯から温帯にかけての鹿児島の地域の特性を浮き彫りにします。</p> | <p>アクティビティ 13:30～16:00 城山巡検 (NPO法人くすの木自然館 担当)</p> <p>国指定天然記念物の城山は、市街地の真ん中にありながら豊かな自然のオアシスです。木洩れ日の美しい遊歩道を歩きながら、のんびり自然観察します。</p> |
| <p>11月29日(水)</p> | | |
| <p>講義5. 8:50～10:20 「鹿児島探訪」より 薩摩藩の歴史-徳川家と島津家- (法文学部教授 原口 泉)</p> <p>「女の未知は、前へ進むしかない。引返すのは恥でございます。」幕末、江戸城大奥から時代の激変を見送っていた、一人の女性。徳川家第13代将軍家定の御台所、天璋院篤姫の生涯をたどります。天下第2の大藩・島津家と将軍徳川家が織りなす幕末維新史です。</p> | <p>講義6+アクティビティ 10:30～17:00 さつま金山蔵 巡検(現地研修) (生涯学習教育研究センター助教授 小栗有子 +NPO法人かごしま探検の会)</p> <p>江戸期の最盛期には7千人が採掘に携わっていた片ヶ野金山跡を旧街道の物語とともにじっくり訪ね歩きます。</p> |  <p>薩摩金山蔵 概観</p> |
| <p>11月30日(木)</p> | | |
| <p>講義7. 8:50～10:20 焼酎のゼロエミッションへの挑戦 (水産学部助手 江幡恵吾)</p> <p>焼酎ブームの裏では、大量に廃棄される焼酎廃液の処理問題が横たわっています。近年、この産業廃棄物の新しい資源利用の試みが始まっており、最先端の裏事情をご紹介します。</p> | <p>講義8. 10:30～12:00 「鹿児島探訪」より 焼酎と黒酢 (鹿児島県工業技術センター主任研究員 瀬戸口眞治)</p> <p>焼酎は、鹿児島の発酵文化の代表格ですが、黒酢も負けじと伝統があります。焼酎と黒酢の違いや特徴について、鹿児島大学の学生と共に受講いただきます。</p> | <p>午後、自由研修</p>  <p>「維新ふるさと館」のある加治屋町は偉人の生まれ育った場所。町を歩いてみませんか。</p> <p>エントランス風景</p> |
| <p>12月01日(金)</p> | | <p>12月02日(土)</p> |
| <p>講義9. 10 9:00～18:30 知覧・指宿・今泉 巡検(現地研修) (生涯学習教育研究センター教授 松野 修 +NPO法人かごしま探検の会 担当)</p> <p>武家屋敷群と特攻基地で知られる知覧、砂蒸し温泉のある指宿、将軍家に嫁いだ天璋院篤姫(2008年NHK大河ドラマの主人公)の出身地 今和泉を南薩の美しい風景とともにめぐります。</p> |  <p>(知覧武家屋敷群)</p> | <p>12月03日(日)</p> <p>2日間、自由研修</p> <p>霧島温泉郷に泊まり、鹿児島ならではの見学・体験・交流ツアーをご案内する予定です。(希望者のみ別料金)</p> |

日程、講義などの予定

12月04日(月)

講義11. 8:50~10:20
温泉の分子模型づくり
 (生涯学習教育研究センター教授 松野 修)
 2週間のプログラムの目的や概要について確認します。大学施設やスタッフの紹介など、新入生の気分をぜひ味わってください。

講義12. 10:30~12:00
鹿児島の温泉
 (元理学部教授 坂元隼雄)
 鹿児島の水博士といえば、この人。県内の温泉を調査し尽くした第一人者より、鹿児島の温泉が場所によってどのように違うのか、効用を始め、温泉水の活用法についてお話します。

アクティビティ・選択授業 13:00~14:30
鹿児島の温泉
 (NPO法人かごしま探検の会 担当)
 鹿児島市内にある銭湯のほとんどが温泉という、まさに泉都鹿児島市の銭湯物語を体験します。入ってもよし、眺めてもよし(?)

12月05日(火)

講義13. 14. 9:00~18:00
鹿児島の山は宝の山
 (農学部助教授 井倉洋二)
 鹿児島の文化や人々の暮らしを支えてきた豊かな照葉樹の森、そして林業。大隅半島にある鹿児島大学演習林を舞台に、鹿児島の森林を探り、森林と人との新たな関係を考えます。鹿児島大学と地域が連携した自然学校の取組についても紹介します。(鹿児島大学高隈演習林にて)
 この日は鹿屋市のアジア・太平洋農村研修センターに外泊。



桜島めぐりのイメージ

12月06日(水)

講義15. 16. 9:00~12:00
鹿児島の海は牧場だった
 (水産学部教授 野呂忠秀)
 桜島の浮かぶ錦江湾は、水深230メートルもある日本では類を見ない深海です。この湾の生物と出会う水族館を訪問しながら、この湾の成り立ちから養殖業の盛んな理由などについて概説します。(鹿児島水族館にて)

アクティビティ・選択授業 13:00~18:00
桜島めぐり
 (NPO法人桜島ミュージアム 担当)
 初めはフェリーの上から桜島全体を眺め、そして上陸後は大正噴火のメカニズムについてや、風景を当時と比較しながら、港周辺を訪ね歩きます。

12月07日(木)

講義17. 8:50~10:20
鹿児島藩の歴史世界
 (法文学部教授 原口泉)
 関ヶ原合戦から戊辰戦争、そして西南戦争まで、南九州と南の島々に展開した歴史世界の諸事件を史料に基づきながら追跡していきます。

講義18. 10:30~17:00
薩摩焼の歴史と薩摩焼きの体験(現地研修)
 (法文学部教授 原口泉 + NPO法人かごしま探検の会 担当)
 薩摩藩の産業である薩摩焼きの歴史を、朝鮮の役から幕末まで概観します。木曾川治水工事、天保改革、パリ万博など多彩なドラマが展開していきます。
 講義後、薩摩焼陶工の里美山に点在する焼き物ゆかりの史跡を、窯元見学とともにじっくりと訪ね歩きます。

12月08日(金)

講義19. 8:50~10:20
シンポジウム
 (生涯学習教育研究センター教授 小栗有子)
 2週間の学習を振り返りながら、受講者の疑問や質問に応えつつ、補足の説明を行います。講義をつとめた講師をパネリストに迎えて、座談会形式で受講者とともに、2週間のプログラムの総まとめを行います。

講義20. 10:30~11:30
修了式
 (生涯学習教育研究センター教授 松野 修)

13:00~14:00
パーティ (学内にて)

12月09日(土)

~10:00
 各自、ホテルをチェックアウトして頂きます。



美山の登り窯

実際

しかし、「清水の舞台の下」の「シニア短期留学」のカリキュラムは魅力十分でした。今までの自分は、準備をして「現場に現れ」るものを待つ感じでしたが「仮説を立てて現場で検証」するこの学びの方法もあることを知りました。また歴史、地勢、気候、地場産業などの講義は私の求めているものに隣接していました。次の機会にはより深い学習を得たいと思わせます。

講義に魅せられていた私は、本来の目的を忘れかけていました。「シニア短期留学」も終盤を迎えていたころ、教授から、水産学部の教授とアポイントメントが取れたので受講を休んで会うようにと指示されます。

「シニア短期留学」の教授陣のご尽力により水産学部の教授と会えることになったのです。同席していただいた「シニア短期留学」の教授の力強い支援を頂きました。そうして高いハードルを超えることができたのです。あの重くて堅い扉は開いたのです。

3. 一抹の不安と心躍らせ教室へ

— 鹿児島大学水産学部科目等履修生 —

「シニア短期留学」教授陣のご尽力、水産学部教授陣の寛大な受け入れを頂き扉は開きました。しかしなお事務手続きのハードルは高く、学部副部長教授の英断を頂き水産学部科目等履修生となれたのです。

学部では海洋社会を指向し漁村の社会的役割や、水産経済を中心に学ぶこととなります。あわせて思考法・学習法も学べました。新しい知識の習得は困難を伴いましたが、心躍る日々でした。



宮崎県日南油津漁港。マグロのト口箱と冷凍車。

(1)なぜ水産学部？

はじめに記したように、水産物輸送で全国を駆けたことが郷愁になっています。これまでの人生の中で唯一と言っても良い獲得と達成感を得た「自信の時代」といっても良いかもしれません。もう「一番競り、二番競り」と行った“おっかけ（特急便）”は無くなっていました。しかしそれが廃止されてからまだ間がなく、鮮魚を積みば運転手の体は普通に“おっかけ”状態になっていました。従ってその運行は厳しく一般道路、高速道路、市場内を問わず、力業や離れ業は常でありました。体力も技術も高度なものを一人ひとりが培ちかいその「社力」は、自他共に認めるものでした。家族を養うために長く不本意で自信のない仕事に就かざるを得なかった者にとって、唯一の自信にあふれ誇りを持てた時代であったのです。「このままでは死ねない」者にとってそこへの回帰は必然であったのかもしれませんが。若者へ自信を与えてくれた漁民。そこに故郷を見たのです。

(2)何を学んだ？

実学でした。教科書は、法律や制度政策で漁業白書は主要な学習対象でした。以下、私が学べたことを列記します。

- ・漁民社会は、この半世紀大きな変化を見せた。沿岸漁場の衰退、漁場の国際化、魚食の世界化、養殖の発展、流通の変化、国民の魚食離れ等によってその変化が起こされたと思われる。
- ・漁民社会の社会的役割について学ぶ。水産経済の大きな変化と国民の魚離れに対して養殖漁業は加工と輸出に活路を求めている。一方釣り・網漁業等漁業一般は、大規模小売店による定形定量を求められて、消費されない水産物も生み出している。それらは公設市場流通の衰退も生み出しているが、傍観していて良いのだろうか？ 沿岸漁業の回復のために、栽培漁業に力を入れている。しかし環境の悪化であろうか稚魚が育たない。護岸のあり方や海砂採取、山林の荒廃や土地改良等の影響が強く懸念されている。
- ・海の領有化と魚食が国際的な広がりを見せて、水産資源争奪の激化になって現れている。いま沿岸漁業の再生が求められているのではないだろうか？
- ・食料の地産地消の推進と安全、漁業を基幹産業としての

位置づけが必要なのではないのだろうか？ 国の予算を何の目的で何処へどんな配分をするのかが問われている。

- ・魚食推進には、外国食の攻勢に有効な対策をとること。たゆみなき広報と食育の活動、徹底した骨なし切り身と魅力的な料理の創造・加工品開発等が挙げられている。
- ・公有水面の埋め立や規制、施設立地の影響に漁民への漁業補償が行われるが、食料も公有水面も国民のものである。ゆえに国民の食料損失補償も行われるべきではないのか？ 漁業補償だけで済むことではない。さらに、漁業補償は食料生産の社会的使命の面でゆがみを生んでいる。たとえば、補償金の1人当たり金額が少なくなる対象組合員の増加につながる漁業組合の再編に加わらない(再編の是非は別にして)。食糧供給の役割を放棄して既得権益のみ守ろうとする生産活動をしないう組合員も生み出している。

(3) 大変だったこと

思い描いていたものとはいささか違っていました。場は与えられているのに立ちすくむだけで何も出来なかったことが悔やまれます。その理由を改めて振り返ってみると、以下の点があげられるように思います。

- ・ゼミが受講できなかった。邪魔になるか？と忖度してしまって受講申し込みを断念した。
- ・年齢差の大きさからくる慣れない環境に日々胃の痛む思いであった。



牛深町須口浦。鯛の水揚げを狙ってホッパーから掠め取る鳶の群れ。鯛は共有！



桜島。長谷漁港付近の養殖場。まさに海の牧場。

- ・先生がたからの差し伸べられる手に応えられず、大学の機能も活用しきれなかった。
- ・大学生の自覚を持つのが難しかった。

(4) 公開授業受講生として二足のわらじ

水産学部に学ぶ傍ら、大学生としての教養、専門学を支える周辺の学問を学ぶために「生涯学習教育研究センター」が行う公開授業を活用した。公開授業は多彩で魅力ある教科が目白押しでうれしい気持ちになります。水産学部科目履修生としては、水産科目の公開も増やしてもらえたらとこころ思いしたものです。

鹿児島大学公開授業を受講するさい、海洋社会につながる全ての科目、表現することにつながる科目を重点に受講を重ねました。水産生物学、干潟の生物学、水圏生態学など公開授業で受講できたことは資金面で大いに助かりました。

また、言語表現論、教科外活動論など、伝達能力とフィールドワークによる問題の発見と解決の力を学ぶことができました。そのことは後の学習意欲を高めたことになります。さらに、歴史と離島関係の受講はその後の学習方向に大きく影響を与えることになりました。

4. その他の鹿児島における学びの場面

－ 沸き立つ生涯学習舞台鹿児島 －

鹿児島滞在でやったこと・考えたこと

科目等履修生時代を2年間経験したのちも、「漁村や浦」の歴史も知りたい、という思いがありました。又妻も「文化工芸村」の生涯学習に身を委ねていた関係で、そのまま

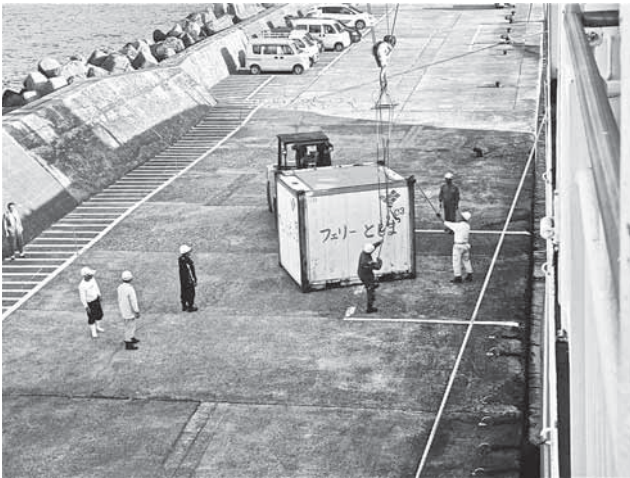
鹿児島に残ることにしました。その間、次のようなことを考えていました。

最期まで生き生きした暮らしを支える意味で、鹿児島の生涯学習の動きは、「学習の社会化」を呼んでいるのではないのでしょうか。運動系、文系、事業系、レクリエーション系などあるいはその周辺も含めたグラデーション模様の多種多様な事業が見られます。教育機関、行政機関、民営にとどまらず、研究者の会、サークル、NPO、個人等様々な形の活動が、あちらこちらで沸き立つようにです。

それを支える重要な要素として、教室や会場、運動場・道場などが必要ですが、鹿児島にはそれがあります。それは公民館・福祉館に始まり体育館やアリーナ、武道館、プール、文学館、工芸村、多目的の集会施設などと多岐にわたるかつ多所に立地しています。

生涯学習は、社会の中に適当なハードとソフトを必要とします。それはどういう姿が望まれるのか？ 鹿児島は一つの回答を見せているのかもしれませんが。

(1) 昔の漁民はどんな暮らしをしていたのだろうか？



トカラ列島中之島。港の荷受け作業は、鳶口を使ってクレーンのフックを外す。

生涯学習環境の中で私は数多くの出会いをしています。その中のひとつに原口教授の講義に出てくる「七島衆」があります。浅学ですが、七島衆は資本家集団の側面も持っていたように感じました。船や傭人を持ち、商いをし、資本を貸し付ける。島の耕作地はないに等しい。消費地には遠い離島の漁業。その彼ら彼女らは家族を養うためにどんな生き方をしたのだろうか？ そこに関心が向いていく中で、大学や黎明館、輝津館の企画に目がとまりました。そう、



霧島市主催の竹子の里、ふるさとウォーク大会。殿を勤める青年団

今関心があるのは、耕作地が十分ではない、消費地が遠い離島の人々は昔どんな暮らしをしていたのか？ にあります。

(2) 各所の旺盛な地域活動の一端に触れたこと

さつま町のグリーンツーリズム、甕島の体験漁業、南さつま市ブルーツーリズム、南大隅の渚トレッキングなどに参加しました。小さな町や村が自己確立のために奮闘している姿はそのまま生涯学習のテーマの一つを提供していると感じたものです。

こうした「官」による「照葉樹の森管理事務所」「霧島自然ふれあいセンター」「霧島ジオパーク推進連絡協議会」など自然の中での人の育みと自然保護の事業。また「くすの木自然館」「かごしま探検の会」などはよく知られていますが、そうしたNPO法人は「霧島連山登山クラブ・ボランティアレンジャーの会」「SCC」など数多くあります。それら「官」「民」の展開する活動は「自然と人間の関係」「人間と社会の関係」「先進技術の普遍化」など、取り組む内容も多種多様です。たとえば情報系などの分野では、とかく時代の先端に疎遠になりがちで、家事に携わる女性や職場から離れた年配者に貴重な支援と機会を提供しています。また「社会人スポーツ」のレベルを持つ「NPO法人SCC」は小学生から、超70歳の会員を擁して週3回陸上競技場を主场にして陸上競技の研鑽を積んでいます。ジュニアのアジア大会出場者、日本のマスターズ記録保持者もおられる、幅広い年齢層を持ち入会は初心者からながらレ

ベルの高さも併せ持つスポーツサークルです。

黎明館、輝津館や長島町など各地の「歴史民俗資料館」研究会やサークルなどは研究会や学習企画、発表と盛んに行われています。このところ、中近世の海上交通や交易などについての研究発表や展示、講座や講演が数多くなされて、私にとってとても魅力的な企画が続いています。

施設も利用しやすく、個人団体を問わずによく利用されています。鹿児島は「尚武の国」にふさわしく武道がとて

も盛んです。私も年齢を考えて、転んで骨折して寝たきりにならないようにと、受け身を習得しようと思い立ち、合気道を選びました。調べてみると町中に数多くの道場があり自前の道場を持っているところや民間施設もありますが、公共の武道館も多くその場を提供しています。嬉しいことに貸し切り利用ではなく、一人でも使える共用パターンがあることです。使用料も安く誰でも使える、使いやすさが嬉しい。

私が参加したイベントの一部

| | |
|----------|---|
| 自治体の企画 | 文学講座 歴史講座他 甕島移住促進ブルーツーリズム 南大隅の地理と歴史と渚トレッキング 照葉樹の森管理事務所の企画 さつま町グリーンツーリズム (民泊) 薩摩・琉球 400 年企画 工芸教室 内之浦界隈の歴史と地理とつゆした鱈の旅 霧島山楽隊 霧島ジオパークガイド講座 歴史研究会 輝津館、黎明館、始良市歴史民俗資料館 |
| NPO 等の企画 | 「南さつまの地理と歴史と今」等学習ツアー 霧島山岳ガイド講座他 PC 講座 速記講座 |
| サークル入会 | 霧島連山ボランティアレンジャーの会 SCC (スポーツコミュニケーションサークル) 日本民主主義文学会鹿児島支部 |
| 民営 | 鹿児島合気修練道場入門 酒造所見学 指宿の人工海浜計画講演 |
| 自分の企画で | 離島探訪＝沖縄、甕島、種子島、中之島、宝島。 漁村探訪＝薩摩半島、日南、日向、不知火海、有明海、佐賀玄海地域。 |

6. 今思うこと — 総括 —

海洋民の社会を学ぶ目的の「鹿児島遊学」でありました。当初の学習イメージとは少し異なりますが、多くの学習機会に恵まれました。ただ依然分析する力、総合する力つまり学習する力が未熟です。そのために、今までと同様せつ

かくの機会を貧しいものにしかつ、多くの機会を逃した感じが強いのです。しかし、限られた資金と時間の中ではありますが、たくさんの事に触れることができました。今後、それらを分析総合して海洋民の社会のひとつを自分の目に映すことができればいいなと思っています。

今は「昔の海の民」はどんな暮らしをしていたのかにも関心が向いています。それには、歴史にも地理にも気象にも政治経済にも文化にも触れていかなければと気持ちを新たにしているところです。

食道癌の手術と6ヶ月の入院。人生最大のイベントでありました。現在自分に残された時間は不明です。きわめて少ない時間であることは間違いないことです。終わりはどんな姿でいるのか。つまりそれまでどう生きるかですが、少なくとも多くの方々の好意に応えようとする姿勢だけは持ちたいと思っています。

近く奈良に帰ることになります。最期まで「漁民社会」に関わる勉学を続けよう、と思いを新たにしているところです。また、奈良に戻ってから、もう一度この「鹿児島遊学」について考える機会をもちたいと思っています。そのような願いを込めて、本稿のタイトルを「かごしま見聞録その1」にした次第であります。

またレポート提出を断念するところ、拙い文につきあって頂き叱咤激励を頂いて提出できました。小栗先生に深く感謝いたします。



種子島梶渦漁港。網漁を営む老漁師夫婦。